

# 人口戦略（仮称）骨子案

2024/9/26 現在

# I 策定趣旨

- 県内人口は約50年ぶりに200万人割れ。人口減少は今後も続く見通し
- 既に担い手不足などは顕在化、このままでは様々な問題が更に深刻度を増すおそれ
- こうした問題を乗り越えるためには、これまでの常識に捉われず未来を創造していくとの決意の下、私たちそれぞれが今から行動を起こしていくことが必要
- 将来世代のためにも今を生きる私たちの責任として、明るい将来ビジョンとその実現策を戦略として取りまとめ、オール信州での実行を目指す

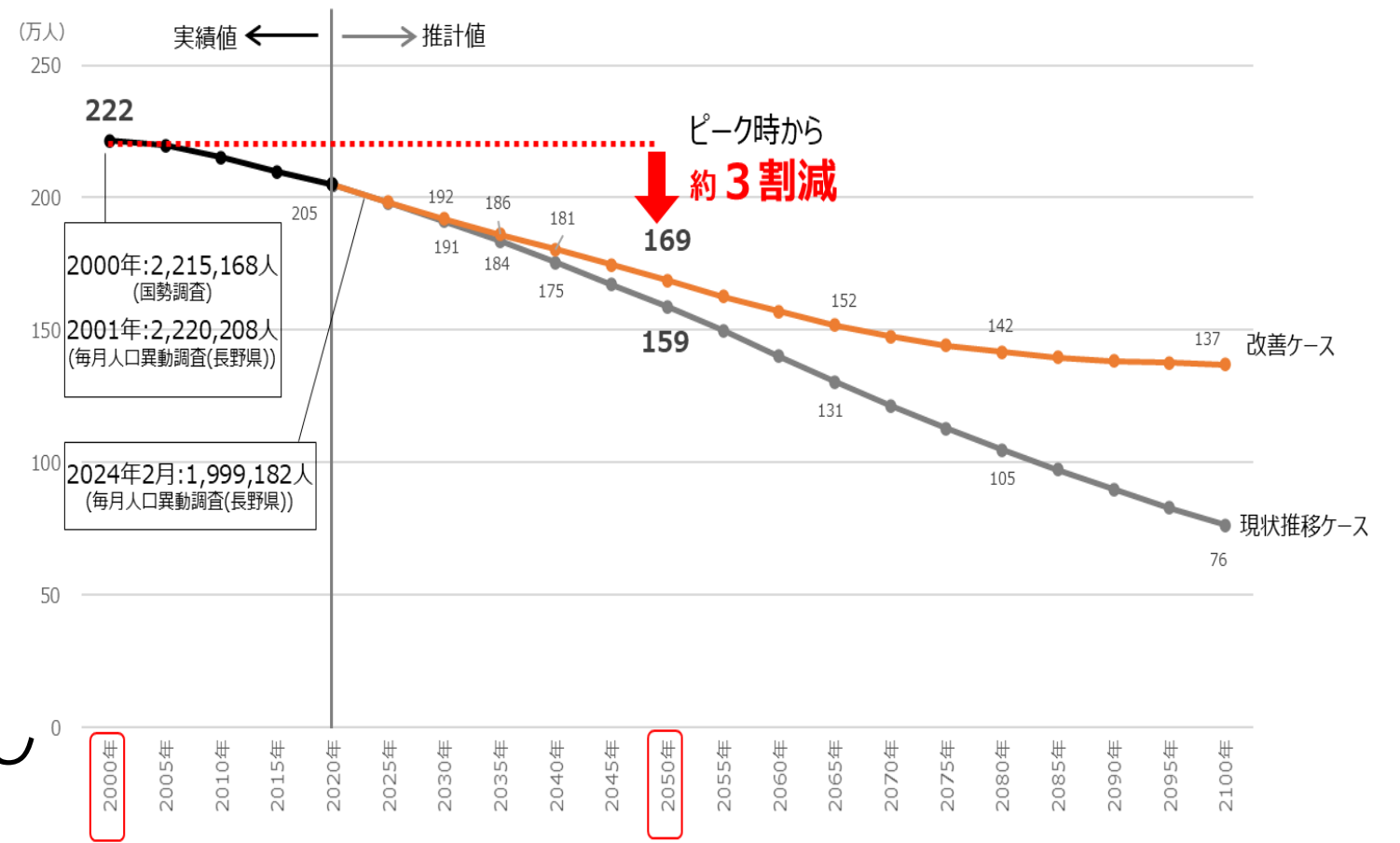
## II 戦略の性格・特色

- 今の子どもたちが社会で活躍する2050年を展望して、明るい未来の実現に向けて私たちが今から取り組むべきこと、検討すべきことを取りまとめたもの
- そのためには、働き方や暮らし方、またその前提となる価値観など、私たちの生活やこれまでの常識を変えていくことが必要
- 私たちは、いままでの延長線上にある取組を行うだけでなく、長期的な視点に立って、大胆な社会システムの変革に挑戦していく
- この戦略は、行政だけでなく産業界や地域、更には県民それぞれが変革に向けて具体的なアクション・行動を起こす羅針盤となるもの
- みんなが進む方向性がわかるよう、わかりやすい当面の目標（＝旗）を設定
- 私たちは、趣旨に賛同する団体・個人が参加する県民会議を立ち上げ、多くの県民を巻き込みながら戦略を推進していく

# Ⅲ 人口推計と将来への影響

## (人口の現状と推計)

- 長野県の2050年の将来推計人口は、現状推移ケースでは159万人、改善ケースでも169万人となり、現状のまま何もしなければ、2001年のピーク時から約3割減少する「7がけ社会」が到来する見通し



出典：2020年までは国勢調査（総務省）、2025年以降は長野県企画振興部推計

- 長野県の合計特殊出生率は1.34、全国を上回っているものの4年連続で低下
- 今後、ただちに出生率が改善したとしても、しばらくの人口減少は不可避
- 高齢化が進み、2050年には高齢者が総人口の4割を超える見通し
- 20～24歳の転出超過が最も大きく、同世代の女性の転出超過が最も深刻
- 一方で、30～39歳の子育て世代は転入超過数が増加傾向

# Ⅲ 人口推計と将来への影響

## (将来起こり得る問題)

- 労働力人口・消費者人口の減少により産業の成長力・競争力が低下し、賃金が減少
- 地域の担い手不足による互いに支えあうコミュニティの弱体化
- 高齢化に伴い、後世代の医療・介護・年金の負担の増加
- インフラ（道路・上下水道等）や行政サービス、地域公共交通の維持困難
- 空き家や空き地が増加し、まちのスポンジ化が進行、スーパーや娯楽施設などが撤退

## (将来への希望の種)

- 担い手の不足は、誰もが社会で活躍できるチャンスに
- 子どもの数の減少は、個別最適な学びへの転換を促す好機に
- AI・ロボット技術等の飛躍的な発展は、人口減少の影響を緩和、暮らしをより便利で快適に
- 人口構成の変化は、新たなビジネスチャンスに
- 社会保障関係費やインフラ維持の負担増大は、行財政改革やまちの再生を促す契機に

## IV 県が行った意見交換で明らかになった課題の例

- 人口減少は自分の生活には関係ないと無意識に思っている
- 男性/女性という性別イメージで仕事や生活の役割が決まっていて、個人の希望を実現できない
- 閉鎖的なコミュニティや年功序列の意識が残っており、若者が活躍しづらい
- 若者に長野県の魅力が伝わっていない、若者が地域に魅力を感じていない
- 公共交通のアクセスが悪く、料金が高くて利用しづらい

など

## V 明るい未来の実現に向けた取組の方向性

- 「将来への希望の種」を育て、**明るい将来ビジョンを示す**のが今を生きる私たちの努め。
- 意見交換で明らかになった課題も踏まえ、働き方や暮らし方、またその前提となる価値観などを以下のとおり変えていく。

- **固定的な価値観による閉鎖的な社会 ⇒ 多様な価値観が認められる寛容な社会**
  - ・ 仕事は男、育児は女という考え ⇒ 共育でできる働き方が当たり前という考え
  - ・ 年功序列男性優位社会 ⇒ 女性・若者が自分らしく活躍できる社会
  - ・ 日本人中心・内向きな社会 ⇒ 外国人、移住者・二地域居住者と共生する社会
- **まち・むら・しごと ⇒ 楽しいまち・むら・しごと**  
(コンパクト・プラス・ネットワーク、インフラ投資重点化など)

そして、移住や学びなど長野県の特徴を最大限活かし、

- 1 **人口減少の事実の共有と価値観の転換**
- 2 **個性きわ立つ信州づくりを通じた急激な人口減少の緩和**
- 3 **人口減少社会に適応した「ゆたかな社会」の実現**

の3つの観点で取組を進めていく。

- 戦略策定後は、各主体が戦略を踏まえ**自ら取り組む具体的なアクションを公表**

# VI オール信州で取り組むこと

## 戦略方針案 (2024.2発表)

### 1 人口減少スピードの「緩和」

急激な少子化に歯止めをかけ、総人口を早期に定常化する

### 2 人口減少社会への「適応」

人口減少期でもゆたかで活力ある経済社会を構築する

緩和にウェルビーイングの概念（個を重視）を入れ、本県の特徴を前端的に打ち出し！

オール信州で取り組む！

不明確であった適応策を明確化！

## 戦略骨子案

### 1 人口減少の事実の共有と価値観の転換

・県民会議による価値観転換の方向づけと、取組への呼びかけ

### 2 個性きわ立つ信州づくりを通じた急激な人口減少の緩和

### 3 人口減少社会に適応した「ゆたかな社会」の実現

2-1  
自分らしく活躍できる地域・職場をつくる ～県民全てのウェルビーイングを向上～

- ①働き方を変えて子育てをみんなで当たり前しよう
- ②性別による固定的役割分担意識をみんなでなくそう
- ③若者の社会参画を応援し、活動をサポートしよう（結婚支援を含む）
- ④子ども・子育て家庭をみんなで支えよう（出産・子育て支援を含む）
- ⑤外国人が活躍し、みんなが暮らしやすい社会を実現しよう
- ⑥お互いの人権を共に尊重しよう

2-2  
暮らし、つながる仲間を増やす ～移住・多地域居住の促進と関係人口拡大～

2-3  
世界に通じる新しい学びを共につくる ～教育県「長野」から日本の学びを変革～

3-1  
楽しく快適なまち・むらをつくる ～県土グランドデザインの策定と実行～

3-2  
人材・担い手不足を乗り越える ～徹底的なDXと人材・担い手の育成・確保～

3-3  
世界の知見と成長を取り込む ～産業のグローバル化・高付加価値化～

3-4  
持続可能な産業・行政をつくる ～規模拡大、広域連携、業務の共同化～

3-5  
生きがいあふれる人生を過ごす

～一人多役の促進とソーシャルセクター（社会課題解決の担い手）の活性化～